

# 令和3年度 研究助成の選考結果について

(一財)北海道開発協会 開発調査総合研究所長 黒崎 宏

当協会では、北海道開発に関する社会科学分野を対象に道内の大学等高等教育機関で研究を行っている研究者に助成を行っています。令和3年度研究助成においては、令和2年10月上旬から令和3年2月1日までの間、募集し、道内各地の大学等から応募があり、応募された研究のテーマは、まちづくり、地域開発、農村・観光・福祉などにおよびました。以上の研究について、当協会に設けた研究助成選考委員会を開催し、厳正な審査・選考を踏まえ、次表の2件を採択しました。

なお、令和3年度研究助成の選考にあたった選考

委員は次のとおりです。(3月11日現在・敬称略)

座長 梶井祥子 札幌大谷大学社会学部教授  
委員 田村 亨 北海商科大学商学部教授  
" 高木真吾 北海道大学大学院経済学研究院教授  
" 米津仁司 北海道開発局開発監理部次長

当協会では今後も本研究助成事業を続けていく予定です。毎年度作成する研究助成募集要領をご参考のうえ、意欲的なテーマで応募されることを期待するものです。

## 令和3年度 研究助成選考結果

(五十音順)

申請者(代表)・所属	助成研究テーマと研究の目的
高野 伸栄 * 北海道大学大学院 工学研究院 教授	<b>【定住促進のための北海道における屋根雪下ろし事故に係る実態分析及び意識調査を踏まえた社会システムに関する研究】</b> 本研究では、屋根雪下ろし事故の減少に向け、居住者や作業者の心理を明らかにし、屋根雪下ろしに対する適切な判断と行動を一般市民が採れるような、行動変容を促す注意喚起手法の開発に向けた調査とともに、定住意識と雪処理問題に関わる意識調査を基に、地方の人口流出の抑制に向け、雪処理問題の解決のためのインフラ・地域社会システムの構築に関するの提言を行う。
佐藤 広崇 * 旭川医科大学 脳神経外科学講座 助教	<b>【遠隔画像診断技術による北海道の新たな遠隔救急医療体制の創出】</b> 専門医(脳神経外科医等)が常駐しない地域で、専門性が高い救急症例に対して遠隔画像診断システムを用いて遠隔地の医師が診療できるような「遠隔救急医療体制」の創出を目的とする。これにより、道内の専門医不足による課題を緩和するとともに、過疎地等においても、安心して持続的に住み続けられる社会の現実に寄与する。

\* 共同研究の代表者(※所属及び職名は令和3年3月31日現在)